

海外事例視察について

1. 視察について

昨年度のマカオに続き、本年度の調査事業においても沖縄型カジノ・エンターテインメントの参考となる海外事例調査を実施する。

調査は、立地地域における MICE 機能等を含む観光政策やその現状、現状の問題点に対しての法規制等を含む影響への対策・支援対策等の確認、カジノ・エンターテインメント施設の内容と治安・保安・防犯対策・青少年規制の現状等について、関係機関等からのヒアリング及び資料収集を目的とする。

- 行き先：ラスベガス
- 渡航期間：11月10日(月)～11月14日(金)
3泊(プラス1日機内泊)5日
- 参加人数：8名

検討委員	沖縄県	国建
元山 和仁	仲田 秀光	宮城 榮治
國場 幸一	系数 勝	大城 涼子
系数 久美子	玉城 勝也	

2. 視察及びヒアリング予定先

①ラスベガス観光局	ラスベガスの観光の現状、カジノの現状、今後の方向性等についてのヒアリング
②ラスベガスコンベンションセンター	ラスベガスにおける MICE の位置づけ、施設規模、会議内容、会議の誘致手法、及び今後の方向性のヒアリングと施設の視察
③NGC(ネバダゲーミング統制管理局)	カジノ事業者の監視・管理体制や統制、治安の維持、またオペレーター等への指導等についてのヒアリング
④NCPG(ネバダ州責任あるギャンブル推進のための協議会)	自己排除プログラム、カウンセラーの育成等の様々な対策を実施している組織であり、現状や課題、今後の対策のあり方等についてのヒアリング
⑤ネバダ大学	ラスベガスの観光関連従事者の育成、人材の派遣、またそのための大学の機能や役割、市への貢献活動、現状及び今後の方向性等のヒアリング及び施設の視察
⑥オペレーター(ハラーズ社、MGM ミラージュ社)	カジノ大手オペレーターに対し、カジノの運営における現状と今後の展望及び日本、沖縄県への進出可能性等についてのヒアリング、及び施設視察(バックヤード含む)
⑦レイクスベガス	湖畔リゾートの視察
⑧その他	その他、周辺カジノ施設や大型ブランドショッピングモール、アトラクション施設等の視察